

第7章

その他

令和6年度県学力・学習状況調査から1人1台端末を使用したCBTを（さいたま市を除く）県内全域で実施します。

CBTで実施することにより、児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の学力向上につなげたいと考えています。

1 埼玉県学力・学習状況調査のCBT化

児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の更なる学力向上につなげていくことを目的として、令和6年度県学調からCBTで実施します。

(1) CBT化の主なメリット

- 正誤の状況に加えて解答時間等を分析することで、より細かく児童生徒のつまずきを把握した指導改善が可能
- 映像を活用した問題など、より実際の学習場面に即した出題が可能

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	数と計算				
問題概要	小数と整数のたし算をする				
見直し回数	7	正誤	正	県正答率	45.2%
かけた時間	5分12秒	かけた時間	県平均	2分45秒	

(分析例)

正答しているが、何度も見直し時間をかけた問題は、児童生徒は解答に悩み、つまずいている可能性が考えられる。



個別指導が可能になり、学習支援が必要な児童生徒を早期に発見することにつながる



(2) 全県でのCBT化に向けた令和5年度の主な取組

ア 接続確認

目的：令和6年度県学調をCBTで安定的かつ円滑に行うため、通信環境を確認

調査対象：令和5年度県学調をPBTで実施した市町村

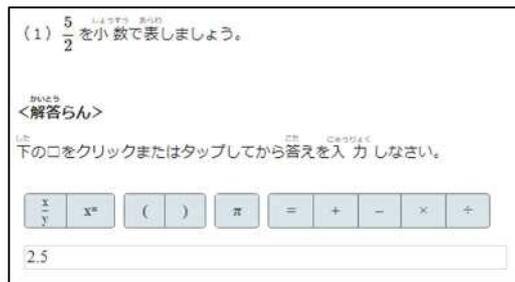
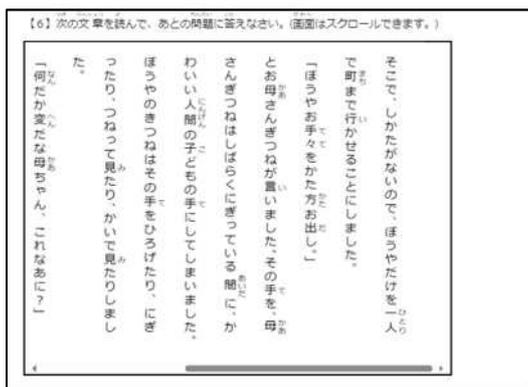
令和5年度県学調をCBTで実施した市町村で、実施方法を変更する予定の市町村

イ CBT体験

目的：児童生徒は個人番号の入力やCBTの操作等を確認

学校は問題の配信や解答データの提出状況の把握方法等を確認

体験対象：県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校、参加を希望する県立特別支援学校における、小学校3年生から中学校2年生の児童生徒



↑ 数式入力ツールやキーボード等で解答を入力する問題

← 文章をスクロールして読む問題

(3) 復習シートのCBT化

県ホームページで公開している埼玉県学力・学習状況調査の類似問題「復習シート」を令和5年度の問題から、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)に順次搭載します。各市町村が使用している学習eポータルで児童生徒に配信し、利用できるようになります。

MEXCBT

【1】 次の図に答えましょう。

おからの角の大きさをくらべて、右がわのわくの半に、上から大きい順に並べなさい。

選択してクリックすると右の解答らんには並び替えることができます。解答らんの中で、上下を入れ替えることもできます。

【2】 次の図に答えましょう。

上から大きい順に並べなさい。

(1) $\frac{5}{2}$ を小数で表しましょう。

<解答らん>

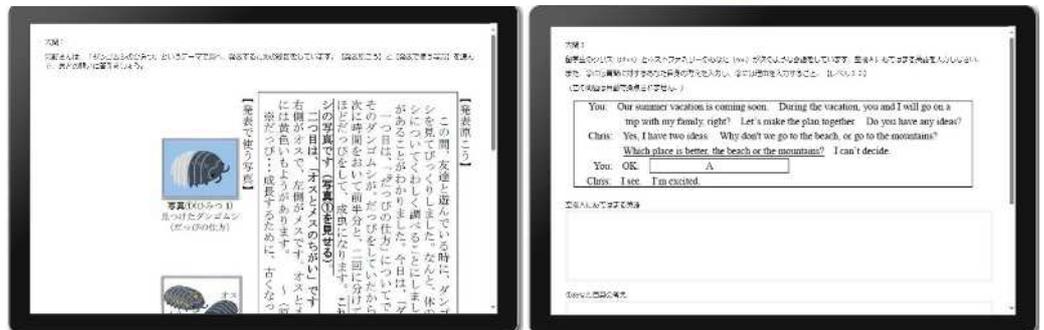
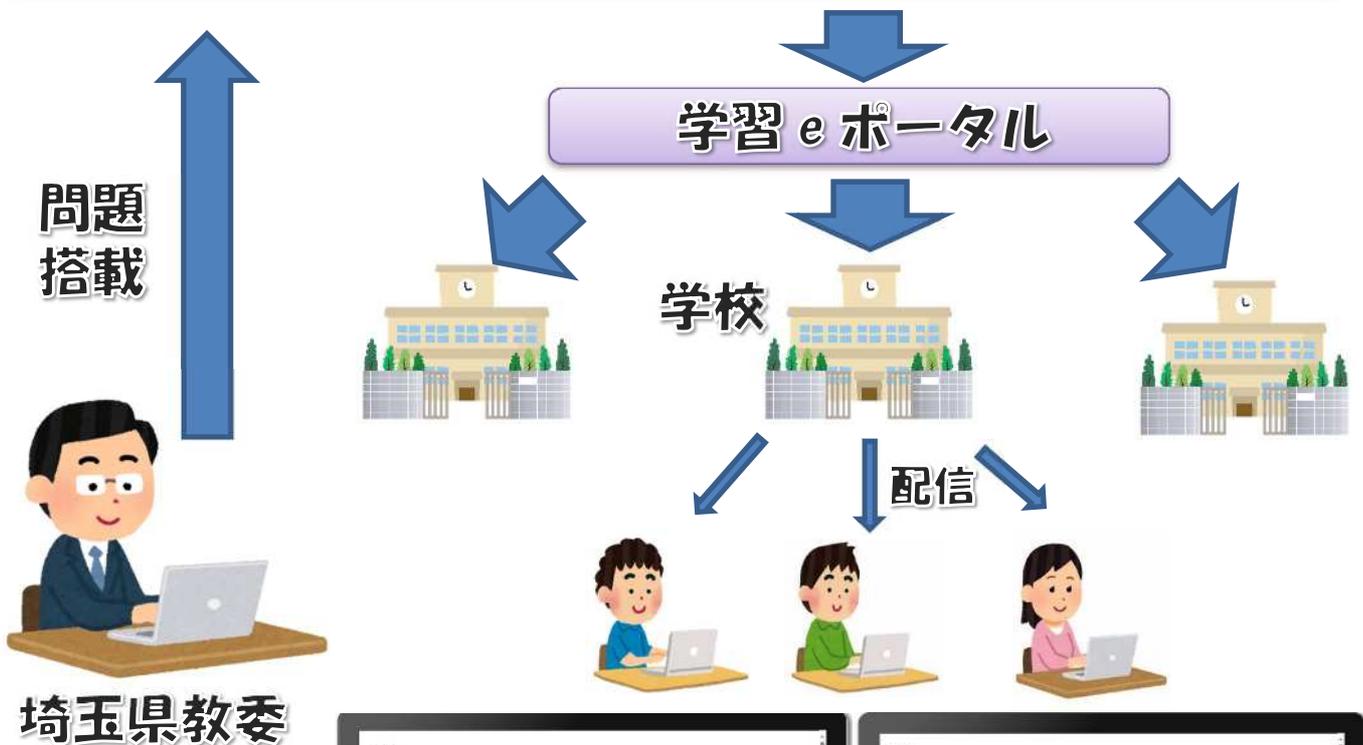
下の□をクリックまたはタップしてから答えを入力しなさい。

$\frac{1}{2}$ \times^* () π = + - \times +

2.5

答え方について(※本番では表示されません)

- 分数を入力するときは、 $\frac{\square}{\square}$ のボタンをクリックまたはタップしてから、分母、分子を半角で入力しましょう。
- ボタンが表示されても使わないこともあります。
- 答え方の説明は、真番問題には表示されません。体験問題でよく確認しましょう。



復習シートの活用頻度の向上

学力向上

参考資料

● C B T 化へ向けたこれまでの取組の概要

様々な課題に対応しながら、段階的に埼玉県学力・学習状況調査（県学調）の C B T 化に向けた取組を推進

年度	取組概要
令和3年度	<p>① 試行調査</p> <p>【目的】 3種のOS（Windows・Chrome・iPad）で、直接型・集約型のどちらの接続方法でも調査実施が可能なことの確認、児童生徒のICT活用能力の確認</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）、県立中学校1校</p>
令和4年度	<p>② 予備調査</p> <p>【目的】 「学力の伸び」を、C B T 化後も継続して測定する仕組みの構築</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）</p>
	<p>③ 接続確認調査</p> <p>【目的】 県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校を対象とした、学校の通信環境（一斉接続）の確認</p> <p>【対象】 62市町村全校（約1,000校）及び県立中学校（1校）</p>
	<p>④ プレ調査</p> <p>【目的】 全面実施を見据えた実施手法や結果返却方法の実証</p> <p>【対象】 1市全校（小学校7校・中学校3校）</p>
令和5年度	<p>⑤ 県学調（本調査）</p> <p>・県内の市町村（さいたま市除く）がC B T か紙による調査（従来通り）を選択し実施 ※C B T（36市町村及び県立中学校1校）、紙による調査（26市町村）</p>
	<p>⑥ 接続確認</p> <p>【目的】 C B T を安定的かつ円滑に行うため、通信環境を確認</p> <p>【対象】 令和5年調査をP B T で実施した市町村及びC B T で実施した市町村の一部</p>
	<p>⑦ C B T 体験</p> <p>【目的】 C B T の操作等と問題配信・解答データの提出状況の把握方法等を確認</p> <p>【対象】 県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校、参加を希望する県立特別支援学校における、小学校3年生から中学校2年生の児童生徒</p>
令和6年度	<p>⑧ 県学調（本調査）</p> <p>・県立学校及び県内全ての市町村（さいたま市を除く）においてC B T で実施</p>

